京都芸術劇場 ニュースレター

Newsletter
shunjuza
studio21

vol.50
2021.8

特集

大学開学30周年記念・劇場20周年記念公演
KUNIO10『更地』 —— 2P–6P

ホワイエ 茂山逸平、島貫泰介 —— 8P–9P

2021年8～11月公演スケジュール —— 10P–11P

大学開学30周年記念・劇場開場20周年記念公演
京都芸術劇場 春秋座 芸術監督プログラム
市川猿之助 春秋座特別舞踊公演 —— T·2P–T·5P

京都芸術劇場は今年、20周年を迎えました

大学開学30周年記念・劇場20周年記念公演

KUNIO10『更地』

2021年10月9日（土）、10日（日） 14:00

会場：春秋座
作：太田省吾
演出・美術：杉原邦生
出演者：南沢奈央、濱田龍臣

写真：表紙、P.2／吉野洋三

◉公演情報の詳細はスケジュール一覧〈P.11〉をご覧ください。

2012年、杉原邦生演出で大きな反響を呼んだKUNIOの代表作『更地』。杉原の大学時代の恩師である劇作家・演出家 太田省吾氏の『更地』は、初老の夫婦がかつて自分たちの家が建っていた更地を訪れ、過去の記憶を旅する物語。今回は戯曲の設定と異なる若い俳優をキャスティングし“未来”への希望に向かう新たな物語として新たに立ち上げます。ほんの少し先の未来さえも見えづらい現在。自らの演劇の原点でもある太田省吾の“更地”に杉原邦生は、どう向き合い、どう描き出すのか。ご期待ください。

（『更地』は）すごく雲みたいだなと。掴みどころがあまりなくて。（中略）だからこそ、役者がどう演じるかで色々な部分が変わってくると思うので、これはどうしていったらいいのかな〜と。結構、険しい崖という感じがします。　——濱田龍臣

演劇の土台が揺らいでしまっているいま、これまでのことを振り返り、これから先のことを構築し直してみたい。 改めて、劇場で演劇を立ち上げたい。 そう考えた時、この『更地』だったんです。　——杉原邦生

——杉原さんと濱田さんは昨年上演された『オレステスとピュラデス』で初めて仕事をされました。
杉原さんは、子役時代から活躍されている濱田さんと一緒に仕事をされて印象は変わりましたか？
僕だけかもしれないですが、実は演劇人って子役という存在にあまりアンテナを張っていないんじゃないかと思うんです。演劇という枠組みの中では、何歳の俳優が子ども役を演じてもアリになるじゃないですか。だから、子ども役に実年齢の子役を使わないといけないという発想が先行しないんです。そういう感覚でずっときているので、プロデューサーから濱田くんというアイデアが出てきた時に名前と顔がすぐには一致しなくて。写真を見て「あの、かわいらしい子ね！」と。子役の頃はふわっとした天使的なイメージですよね。髪の毛もくりくりだったじゃん？
そうですね。
そういう印象だったのに、実際に会って稽古が始まってみると、持ち前のかわいらしさはもちろんありますけど、俳優としての芯がしっかりあるなと思いました。特に印象的だったのは良い意味で飄々としているんです。
あまり、ぐちぐち考えない。もちろん役について台本を読み込んだり、どう芝居として作り上げていくのか考えていることは伝わってくるんですけど、とりあえずやってみる！上手くいかなければ次！と切り替えがスッとできる。だから、演出家としてはすごくやりやすいですね。
そして、本番の舞台に立った時に説得力があるんです。『オレステスとピュラデス』のときはまだ舞台出演の経験も多くなかったのに、きちんと舞台に存在できていた。しかもあの作品は僕のムチャぶりで、何もない広大な空間に身体ひとつでポンッと放り出されるような演出だった。なかなかできないですよ。かわいいだけのふわふわエンジェルじゃなかったんだなと（笑）。
——濱田さんにとってはいかがですか？
演出家さんというのは年齢がもう少し上の方というイメージがあったので、お話があった時に邦生さんのことを調べてみたら「むっちゃ若い方だ！」と新鮮で。どんな舞台になっていくんだろうな〜とワクワクしながら楽しみにしていたんです。そうしたらすごく素敵な方で、稽古場も常に笑顔が絶えなくて。邦生さんは普段、とてもニコニコと楽しくされているのに、お芝居の話になると場をグッと（締める）されるんです。その稽古場全体の空気の持って行き方がすごく良くて、お芝居がすごくやりやすかったです。
——杉原さんの稽古場はいつも笑いが絶えないですよね。
僕がふざけたくなっちゃうし、笑っちゃうんですね（笑）
——杉原さんとの仕事の中で発見した新たな自分というのはありますか。
『オレステスとピュラデス』は２週間ないぐらいの公演期間でしたが、「あ、自分、楽しんでいるなー！」って、そういう気持ちで本番を過ごせたのが大きな発見でした。舞台の仕事ってすごく素敵だなと。その前の三谷幸喜さん演出『大地（Social Distancing Version）』の時は、とにかく必死だったのですが、今回はそれだけでなく、少し楽しむという気持ちの余裕ができたのが自分の中で発見でした。
——濱田さんは沢山の映画やテレビドラマに出られておられますが、映像作品と舞台との違いはどういう風に感じておられますか？
１日の達成感がすごく違いますね。映像だと順番通りに撮影できないことが多いですが、舞台は１日でその人たちのお話が終わるので、自分の中ですごくきれいに完結するというか。それが気持ちいいなと。
でも、終わったらぐったりでしょ（笑）。
ぐったりです（笑）。人間ってこんなに汗をかくんだって思いながらやっていました。
—— １つの人生を、その時間を生き抜くことを繰り返す楽しさを知ってしまったということですね。
毎回、「あぁ自分、頑張ったんだな〜」って余韻に浸っていました。

『更地』は険しい崖

——再び今回、濱田さんをキャスティングされたのは、どの部分に魅かれたからですか。

演出家にとって、もっと違う面を見てみたい、こういう面も見てみたいと欲望がわく俳優は刺激的なんです。そういう期待をたっちゃん（濱田の愛称）は感じさせてくれたということですね。本番中も日々進化していくんですよ。例えば、本番後に出す演出からのアイデアが自分の中で落ちてくると、芝居の幅も、表現自体もグッと大きくなって、お客さんにダイレクトに伝わる。そういう成長が見えたから、もう少し違うたっちゃんも見てみたいなと。
それとさっき飄々としていると言いましたが、たっちゃんは苦しむ姿を見せないのか、実際にあまり苦しんでいないのか分からないけど、悩みまくってるな～みたいなところを見たことがないんです。だから「あ～!!! 全然、わかんねぇっ!」って言ってる姿を見たいなと（笑）
ハハハ（笑）

――演出家冥利につきるというか。

そうですね。『更地』で演じてもらう男という役の年齢設定は初老ですから、たっちゃんとだいぶ離れているので、理解できないことも多いと思うんです。でも、たっちゃんとならその辺も含めて一緒に作っていく楽しさを味わえるんじゃないかなと思っています。

――濱田さんは『更地』のテキストを読まれて印象はいかがですか？

第一印象は、すごく雲みたいだなと。掴みどころがあまりなくて。でも不思議だけれど僕はその中に確かな愛を感じながら読んでいました。どのお芝居もそうですが、色々な人が観れば色々な感想が出てくるわけで、それがとても顕著に現れる作品ではないかなと思いました。だからこそ、役者がどう演じるかで色々な部分が変わってくると思うので、これはどうしていったらいいのかな～と。

――掴みどころがないと。

結構、険しい崖という感じがします。いい滑り出しですね～（笑）。

――初老の夫婦を演じるということに対してはいかがですか。

最初、本を読んだ時、「あ、えぇぇ!!」みたいな（笑）。頭の中 ?? だらけでした。「え、いいんですか？僕で」って。でもこれは邦生さんからの挑戦状みたいなものかなと。この役を下さったのは僕に対してすごく期待してくださっているんだなと感じたので。この役を自分の中にどう落とし込んでくのか。どう表現していくのか迷いながら作っていくのかなと思います。迷って、苦しもう！（笑）。

――濱田さんは相手役の南沢奈央さんとは以前、共演されたことがあるんですね。

姉弟役と親子役で共演させていただいていて今回で 3 回目なんです。お姉さんやってもらって、お母さんやってもらって、次はお嫁さんと。それはなかなか、すごいことだね。ちょっと見た限り、聞いた限りではないな～と。最初は僕が 10 歳ぐらいのやんちゃ盛りだったのですが、いろいろお話をしてくださって、すごく素敵な優しいお姉さんという印象でした。
僕は南沢さんの舞台は 2 回、観ているんです。どちらも白井晃さんの演出でしたが、透明感があるけれど芯が強いんですよ。すごく舞台で力強く見える。それなのに私はここにいる !! って主張している感じではなくて、スッと自然に立っている感じが力強いんです。
『更地』の女という役は一見、個として自立していてたくましく見えるけれど、女性として、人間としての弱さや脆さ、切実な想いが見えてくるというのが重要なんです。そういう部分も彼女ならうまく表現してくれるんじゃないかなと期待しています。

――『オレステスとピュラデス』の時の濱田さんも一つ芯があると感じました。その 2 人が共演されるというのは心強いですね。

二人芝居なので、どちらにも舞台の上での存在感がきちんと備わっていないと成立しないですよね。『更地』の設定は夫婦だけれど、ある部分で親子に見えたり、若いカップルに見えたりと、見え方の幅が欲しいと思っていたんですが、2 人がこれまでに姉弟役、親子役で共演していたということを後から知って、さらに「いいじゃん！」って（笑）。

恩師・太田省吾さんの眼

――以前、杉原さんはインタビューの中で、在学（京都芸術大学、当時：京都造形芸術大学）中、公演の相談をしていると必ず太田省吾さんが来られるという話をされていましたね。

僕が学内のカフェで仲間と次の公演に向けて打ち合わせをしていて、ふと見ると、太田さんが横に立ってるんですよ。それで必ず「次はどんな悪だくみをしているんだ？」って聞いてくる。いやいや、悪いことはしませんよって（笑）。

――その恩師である太田省吾さんはどういう存在ですか？

ふとした時に思い出しますね、眼を感じるというか。僕たち学生は太田さんから演劇表現の何たるかを学びました。演劇とは常に社会と繋がっている、繋がっていなければならない芸術表現だということ。作品は劇場で上演された時点で社会化される。だから、作り手側の想いは社会に対しての想いに他ならないってことなんです。そのことに自覚的でない表現は演劇として脆弱なものになってしまう。演出プランを考えているとき、稽古期間の合間、本番を観ながらふと、今、自分がつくっているものはそういう意味でちゃんと「演劇」になっているだろうかと、考えることがあるんです。そういう時に太田さんの眼を感じて背筋が伸びる（笑）。学生時代、自主公演の客席に

太田さんがいると分かると、みんなピリッとして急に緊張しだすんです（笑）。その感覚がいまでも残っているのかもしれないですね。

――常に意識せざるを得ない存在。

ふとした時にですね。たぶん自分が迷った時とか、これで大丈夫かなと立ち止まった時なんでしょうね。あと、報告する存在でもあります。太田さんの作品と僕の作品、作風はまったく違うんですけど、「僕はあなたから学んだことを礎に今、こういう演劇つくってます」と、たまに報告したくなるんです。

今、『更地』を上演する意味

――杉原さんによる『更地』は、2012年に京都国際舞台芸術祭のプログラムとして元・立誠小学校の講堂で上演されました。ちょうど東日本大震災の翌年で生を力強く肯定するような演出だったように思います。今年、改めて今この『更地』を再演する意味についていかがですか。

ずっと再演したいと思ってタイミングを見計らっていたんです。『更地』は太田省吾さんが1995年の阪神淡路大震災の翌年にも上演して話題になった作品です。2012年に僕が演出した時は実際に家を失ってしまった人や、それまで生活していた場所

撮影：清水俊洋
提供：KYOTO EXPERIMENT

にいられなくなった人が沢山いた。物理的に〈更地〉のような場所が沢山できてしまった。そんな状況下での上演でした。

だからこそ、空間的にも、小学校の講堂という劇場ではない場所を劇場にしていくところからデザインしていった。イントレやトラス（照明などを吊るための鉄製の機材）を組んで照明を吊って、まさに避難所で演劇をやっているみたいな感じ。

うわー。

演劇のための空間から作っていく、そのプロセスを体現したような上演にしたかったんです。

2021年のいまは、また違った意味での〈更地〉に直面している感じがします。感染症という目に見えない脅威によって、さまざまな価値観が揺さぶられ、日常そのものが一変した。こんな状況が1年半も続くなんて思いもしなかった。（2021年7月現在）そんな中、演劇をはじめとする舞台芸術もさまざまな心無い言葉で踏み荒らされ、公演の中止や休演は後を絶たず、存在そのものが〈更地〉にさせられたような感覚です。だからこそ、自分にとっての演劇の原点に立ち返ることがアーティストとして自然な気がしたんです。演劇の土台が揺らいでしまっているいま、これまでのことを振り返り、これから先のことを構築し直してみたい。改めて、劇場で演劇を立ち上げたい。そう考えた時、この『更地』だったんです。

『更地』は、長年連れ添った初老の夫婦が、かつて自分たちの家があった場所にやってきて、過去を回想しながらそれらを組み直し、この先の未来をどう生きるのか問い直していく物語だと思っています。そういう作品を今上演することに大きな意味を感じています。

加えて、今年は京都芸術劇場の20周年ということで、記念公演のお声がけをいただいたんですが、何を隠

『更地』初演 1992年（太田省吾作・演出）
写真資料提供：太田美津子

そう、この劇場の柿落とし公演で観た『更地（韓国版）』（※studio21での上演）が僕にとっての太田作品との出会いでした。そんな素敵な巡り合わせも、この『更地』という作品が作ってくれたものだなと感じています。

京都公演にお越しになる皆様へ

舞台上で必死にもがいて苦しんで頑張りたいと思います。今回は特に邦生さんからの挑戦状だと思っているので自分の答えを見つけ、邦生さんを含め来て下さる皆様にこうだ！と突きつけたいなと思いますので、足を運んでいただいて受け止めに来てくださったら嬉しいです。

実は僕の人生初演出が、ちょうど今のたっちゃんと同じ歳の時で、春秋座だったんだよ。

そうなのですね！

そこから数えると春秋座での上演は13本目です。『更地』をご覧になったことがないという方にはもちろんですが、今回はキャストも劇場空間も変わってまた新たな印象になると思いますので、9年前の上演を観てくださったお客さまにもぜひもう一度観ていただきたいです。

そして、京都芸術大学に通っている学生の皆さんにもぜひ観ていただきたいですね。卒業生の演出家がどういう作品をつくっているのか、俳優を目指す人にとっては自分と同世代の俳優が今、どういう芝居をやっているのかを、それぞれ直に観ることができる、すごくいい機会だと思いますし、刺激になるんじゃないかと思います。何よりも、演劇を学んでいく上で太田さんの作品は知っていて、観ておいて損のないものだと思うし、僕は今こそ上演すべき作品だと思っているので、ぜひ観てほしいです。劇場に足を運んで一緒に空間を共有してほしいなと思っています。

演出・美術

杉原邦生（すぎはらくにお）

演出家、舞台美術家。KUNIO 主宰。京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科、同大学院芸術研究科修士課程修了。2004 年、プロデュース公演カンパニー“KUNIO”を立ち上げる。近作に『水の駅』、『グリークス』、スーパー歌舞伎 II『新版 オグリ』、シアターコクーン『プレイタイム』、PARCO 劇場オープニングシリーズ『藪原検校』などがある。2021 年は、大学の恩師でもある太田省吾の名作『更地』の再演に続き、さいたまゴールド・シアターでの『水の駅』が控えている。

南沢奈央（みなみさわなお）

06 年女優デビュー。 08 年主演ドラマ・映画『赤い糸』（CX）で注目を集める。 その後も大河ドラマ『軍師官兵衛』（NHK）を始めドラマ、映画、舞台、CM・ラジオ MC などで活躍。09 年『赤い城　黒い砂』（演出：栗山民也）で初舞台。近年の主な舞台出演『ハルシオン・デイズ 2020』（演出：鴻上尚史）『アーリントン』（演出：白井晃）など。現在は女優業の傍ら、NHK『とっておき！木曜笑タイム』案内役、読売新聞読書委員、Book Bang『南沢奈央の読書日記』、新潮社「波」などの連載でも活動中。

濱田龍臣（はまだたつおみ）

子役時代から大河ドラマ『龍馬伝』や『怪物くん』などで注目を集め、多数の映画やドラマに出演。16 歳で史上最年少のウルトラマンとして『ウルトラマンジード』主人公に抜擢。主な出演舞台作品は三谷幸喜作・演出『大地（Social Distancing Version）』、杉原邦生演出『オレステスとピュラデス』など。2020 年の WOWOW presents【勝手に演劇大賞2020】において新人賞を受賞。映画『ハニーレモンソーダ』が劇場公開中。ドラマ、バラエティなど多方面で活躍中。

〈希〉〈望〉の演劇

新里直之（演劇研究、京都芸術大学舞台芸術研究センター研究補助職員）

太田省吾（1939−2007）は、日本現代演劇を代表する演出家・劇作家の一人です。1970 年より劇団転形劇場を主宰し、国内外で精力的な演劇活動を展開。90 年代以降は、藤沢市湘南台文化センター市民シアターや京都造形芸術大学（現：京都芸術大学）で、新たな創造の場の実現を試みています。

その創作のなかで特に名高いのは『小町風伝』（77 年初演）、『水の駅』（81 年初演）など、〈沈黙劇〉と呼ばれる作品群です。緩やかなテンポに浸された俳優の身振り、沈黙に息づく繊細な知覚の働きは、世界各地で大きな反響をもって迎えられました。一方、これと並行して台詞を発するスタイルのユニークな作品が、数多く生み出されていることも見逃せません。

「なにもかも、なくしてみる」――これは今回、上演される『更地』（92 年初演）の台詞に含まれる言葉です。社会的な価値を「なにもかも」鎮めて、あるいは日常の判断基準を「なくして」、はるか上空から地上の片隅にある極小の生命を眺め下ろすように、人間のささやかな営みを捉え返すこと。そんな太田の追い求めたヴィジョンは、《希望》という言葉に凝縮されているのかもしれません。

《希》は《稀》とともに〈まれ、めったにない〉という意味に通い、《望》は《眺》と同訓であり〈遠くをみやる〉という意味を表します。今、ここに人が居る、あるいは人と人が共に在るというささやかな事実が、新鮮な驚きに満ちたものとして感じられる瞬間。その希少さ／貴重さを深く受けとめ、人間存在、そして舞台芸術の未来を遠望する姿勢を、太田は貫いています。

9月23日(木・祝) 14:00　　春秋座

大学開学30周年記念・劇場20周年記念公演

猿翁アーカイブにみる三代目市川猿之助の世界

第六回フォーラム「演出」

三代目市川猿之助（二代目猿翁）から京都芸術大学に寄贈された貴重な歌舞伎関係資料をもとに、三代目猿之助の軌跡をたどるフォーラムの6回目。今回は「演出」をテーマに、三代目猿之助とゆかりの方々をゲストにお招きします。

第一部　石川耕士（脚本家、演出家）

「忠臣蔵」も新しい演出で

第二部　藤間勘十郎（宗家藤間流八世宗家）

歌舞伎の名作を新しい演出で挑む

企画…田口章子（京都芸術大学教授）

【チケット申し込み方法】

入場無料（全席指定）　※座席は間隔を空けてご用意いたします。下記をご参照いただき必要事項を全てご記入の上、往復はがきにてお申し込みください。

《2021年8月2日受付開始　先着順・定員350名》

［結果通知］

受付完了後、随時ご返信いたします。座席番号をご確認ください。返信ハガキが入場証となり、入場時にご提示いただきますので、必ずご持参ください。

返信ハガキをお持ちでない場合、入場をお断りする事がございます。予めご了承くださいませ。

〈往信表面〉

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

京都芸術大学舞台芸術研究センター

「猿翁アーカイブ・フォーラム」係宛

〈往信裏面〉

①代表者ご氏名（劇場友の会の方は会員番号もご記入ください）

②ご住所（郵便番号含む）

③お電話番号（日中の連絡が可能なもの）

④ご同伴者有の場合：ご同伴者氏名（1名様まで）

※ただし、お席が離れる可能性があります。

※車椅子をご利用のお客様、足の不自由なお客様はその旨お書きください。

〈返信表面〉代表者のご住所、ご氏名をご記入ください。

〈返信裏面〉白紙

公開連続講座　　春秋座

2021年度 日本芸能史「型と信仰」［後期］

日本の古典芸能や芸道を支えてきた信仰はいわゆる宗教とは異なる。教祖、教典、信者集団の三者が完備した人為的な宗教に対して、この三者を欠く自然発生的な宇宙の生命力への崇敬が信仰である。日本の芸能・芸道が西欧の芸術と異なる特質を持つのは宗教ではなく信仰を母胎として誕生したからである。

日本人の信仰は、万物に霊魂の存在を認める信仰、アニミズムから始まった。やがて、霊魂のなかで人間の生死と深く関わりを持つ霊魂が特別に精妙な働きを持つと信じられて《カミ》の位置に昇華した。それらの神々のなかで最高の位置にあるのが大地の豊穣を象徴する地母神である。

芸能・芸道の型は、《カミ》つまり普遍的価値、宇宙の生命へ通じる通路である。型を通して、日本人は、そこに宿る《カミ》を確認するのである。

1.	**総　論**	諏訪春雄	9月27日
2.	**スーパー歌舞伎**	杉原邦生	10月4日
3.	**相　撲**	木村庄之助	10月11日
4.	**落　語**	桂吉坊	10月18日
5.	**木ノ下歌舞伎**	木ノ下裕一	10月25日
6.	**京　舞**	井上八千代	11月1日
7.	**縄文の舞踊**	諏訪春雄	11月8日
8.	**琉球芸能**	嘉数道彦	11月15日
9.	**アイヌ芸能**	本田優子	11月22日
10.	**附け打ち**	山﨑徹	11月29日
11.	**狂　言**	茂山忠三郎	12月6日
12.	**義太夫**	鶴澤津賀寿　竹本京之助	12月13日
13.	**白拍子**	植木朝子	12月20日
14.	**神　楽**	小林泰三	1月17日

2017年度「神楽―石見神楽」（講師：小林泰三）より

2020年度「落語」（講師：桂吉坊）より

毎　回：月曜日 15:10～16:30

後　期(全14回)：2021年9月27日～2022年1月17日

企画・コーディネーター：田口章子（京都芸術大学 教授）

一筆啓上仕候

志の輔さんお元気でいらっしゃいますか？志の輔さんと初めてお目にかかってからもう 20 年近く経とうとしております。

最初にお目にかかったのは、東京芸術劇場で祖父にご挨拶に来て頂いた時でした。あの時は「あ、ガッテンや！」なんて失礼な事を陰で言うてしまってましたが、まさかあの後『満月の会』でご一緒させていただき、焼鳥屋さんでの打ち上げであんなに親しくお話しさせて貰えるなんて夢にも思ってませんでした。同時期、新国立劇場で出演していた『てのひらのこびと』にはパンフレットに玉稿を頂戴した上、実際に劇場にまでお運び、芝居の感想と共に「あれは観たほうが良いよ！今回の芝居のご褒美に DVD を買いなよ！自分で（笑）」と、当時流行っていたアメリカのドラマ『24－TWENTY FOUR－』のまとめ買いを猛烈にお勧め下さった事は一生の思い出です（笑）。

思い出と言えば、新宿の紀伊國屋ホールの裏のカップルだらけのカフェで PARCO での新作落語『狂言長屋』の打ち合わせをしましたよね？

PARCO に呼んで頂けたのも本当に至福の体験でした。毎日毎日、落語を袖で拝見しながらこの人のバイタリティは一体何処から来るんだろうと不思議でした。同じ落語のはずなのに日々新しいジェットコースターに乗っているようで本当に楽しい日々でした。長男が産まれた時も PARCO の最中でした。生まれた直後の公演ではカーテンコールでお客様に「逸平君が今日無事父親になりました！」と仰って下さりお客様から万雷の拍手を頂戴する事が出来ました！そういえばあの時の回が DVDBOX に収録されているのは志の輔さんの配慮でしょうか？たまたま偶然でしょうか？

偶然だとしても美化して志の輔さんの配慮だと息子には伝えようと思っています（笑）。

昨今のコロナ禍もあり、なかなかご挨拶にも伺えませんが、今年は 11 月に春秋座にお越しと情報を得ました。その際にはあの時産まれた倅を伴ってご挨拶に伺うつもりでいますので、その時は口裏合わせの程よろしくお願い申し上げます！（笑）

逸平拝

茂山逸平

狂言方能楽師

二世七五三の次男。父及び四世千作に師事。4『業平餅』の童にて初舞台。その後『三番三』『釣狐』『花子』を披く。その一方で、映画や NHK 連続テレビ小説「京、ふたり」「オードリー」「ごちそうさん」他、舞台・CM と数々出演。2020 年から「Cutting Edge KYOGEN」として活動している。2006 年秋から 1 年間フランスに留学。日本舞踊、尾上流家元三代目尾上菊之丞と『逸青会』を主催。

CLIP

渡邊守章センター前所長のご逝去について

フランス文学者・演出家で、京都芸術大学舞台芸術研究センター前所長の渡邊守章先生が、4 月 11 日に逝去されました（享年 88 歳）。ここに生前のご功績を偲び心より哀悼の意を表しますとともに、謹んでお知らせ申し上げます。

渡邊守章先生は、2008 年度に舞台芸術研究センター所長・教授に就任（2013 年度まで）。2014 年度以降は同センター主任研究員でした。この間、同センターを牽引いただいたほか、舞台では「マラルメ・プロジェクト」（2010 ～ 2012 年度）や『繻子の靴』（2016・2018 年度）、「春秋座―能と狂言」シリーズ（2009 ～ 2020 年度）をはじめとする多くの斬新で上質な企画を実現いただきました。

京都に KYOTO EXPERIMENT があるということ

これはお世辞でも忖度でもなく、約5年前に自分が東京から京都に生活の拠点を移した理由の一つに「KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭」（以下、KEX）の存在がある。相馬千秋ディレクション時代のF/T（フェスティバル／トーキョー）などを通して現代美術とパフォーミングアーツに同時代的な接点と問題意識を見出し、次第に興味の軸を広義の演劇へと移していった私にとって、トリシャ・ブラウンやShe She Popなどの欧米圏の重要作家たち、木ノ下歌舞伎やcontact Gonzoといった関西圏でなければ生まれ育たなかったであろう日本の作家たちの作品に出会えたKEXは、東京から約450キロメートル西方にある「世界」へと通じる玄関口であったし、しばしば日本の中心と思われがちな東京が、じつは数多ある地方都市の一つに過ぎないということを気づかせてもくれた。2021年夏現在、私はとあるアーティスト・イン・レジデンスの機会を得て大分県別府市での1年間の長期滞在の渦中にいるが、京都からさらに西へと自分自身が移動する契機にもKEXはなったのだと思う。

忘れずに強調しておくべきは、これは単に作家や作品との出会いのみから生じた変化ではないということである。京都は東京や大阪と比べれば遥かに小さな街だが、ほぼ四方を山に囲まれた空間にはじつに多様で豊かな人間の営みと歴史がある。例えば京都駅の東南部に広がる崇仁や東九条は少し調べればわかるように、相当に複雑な歴史背景を持った土地である。進歩や合理性を是とする現代社会からある意味で阻害され、搾取の対象ですらあるここには独特の淀みと悲しみがある。しかしそれ以上に人間であろうとする意志と勇気を奮起させるエネルギーがあり、それは知らず知らずのうちに京都という都市全体に欠かさざる脈動となるのだ。

解決しえない矛盾は多くある。だがそういった都市のダイナミズムがすぐ身近にある経験は、人々の創造性と想像力を刺激し続ける。それは人間身体の表現である演劇やダンスが求め続ける命題でもある。だからこそ、京都にKEXが生まれた理由、あり続ける意味がある。

島貫泰介
美術ライター／編集者
1980年生まれ。京都と東京（2021年度は別府でも）を拠点に活動。捩子ぴじん、三枝愛とともにリサーチコレクティブ「禹歩」としても活動中。

CLIP

YouTube 京都芸術劇場 channel
渡邊守章先生追悼映像公開について

追悼企画として、YouTubeにて、前所長が演出や企画監修に携わった舞台（『繻子の靴』、狂言『木六駄』、能『融』）のダイジェスト映像や、ゆかりの皆様からの追悼メッセージ映像を公開しております。ぜひご覧ください。

YouTube
京都芸術劇場 channel

京都芸術劇場
ホームページリニューアル

劇場のホームページが新しくなりました。従来通り公演のお知らせや出演者へのインタビューなどはもとより、新たにアーカイブページが追加され、過去の公演情報が検索しやすくなりました。ぜひご活用ください。

8 28日(土)／29日(日) 15:30　春秋座
※各回開演45分前ロビー開場

大学開学30周年記念・劇場20周年記念公演

川村毅 作・演出『4』

モノローグから始まり、徐々に思いもよらぬ展開へと観客を導く衝撃作。作者の川村毅は本戯曲において2013年に鶴屋南北戯曲賞、文化庁芸術選奨文部科学大臣賞を受賞しており、本作品では初めて自身の演出で、実力派出演陣とともに舞台を立ち上げます。

『4』…裁判員、刑務官、死刑囚、法務大臣というまったく立場の異なる複数の〈個〉の視点から、死刑制度にかかわる人々と、かかわらざるをえなかった人々の思考や人生がモノローグ形式によって語られていく本作は、その役割を演じ手が交互に替えていき、それぞれが虚構の世界で交わっていくことで、フィクションを通じてリアルな現実を浮き彫りにする。

出演：
今井朋彦、加藤虎ノ介、川口 覚、池岡亮介、小林 隆

全席指定・発売中
一般4500円　友の会4000円　学生&ユース2500円
※未就学児童の入場はご遠慮ください。
託児サービス 28日(土)は託児サービスをご利用いただけます。

T-C　OTS　e+　ぴあ　生協

9 2日(木) 11:00／15:00、3日(金) 11:00、4日(土) 11:00／15:00、5日(日) 11:00　春秋座

大学開学30周年記念・劇場開場20周年記念公演
京都芸術劇場 春秋座 芸術監督プログラム

市川猿之助 春秋座特別舞踊公演

全席指定
【一般発売7月29日(木)、友の会先行発売7月28日(水) 10:00】
一般11000円　友の会10000円
学生&ユース席4000円（座席範囲指定）
※来場者に記念品プレゼント。
※未就学児童の入場はご遠慮ください。
託児サービス 5日(日)は託児サービスをご利用いただけます。

T-C　OTS　e+　ぴあ　生協　ローソン

CNプレイガイド https://www.cnplayguide.com/
楽天チケット https://ticket.rakuten.co.jp/

9 6日(月) 16:00、7日(火) 11:00／15:00、8日(水) 11:00／15:00　春秋座

大学開学30周年記念・劇場20周年記念公演
猿之助と愉快な仲間たち 第一弾公演

朗読劇「天切り松 闇がたり～闇の花道～」

原作：浅田次郎
出演：市川猿之助、尾上右近、ほか猿之助の愉快な仲間たち

時は大正ロマン華やかなりし頃、帝都に名をはせた義賊「目細の安吉」一家の義理と人情に命を賭けた大活躍の物語…。猿之助と仲間たちの胸のすく語りを存分にお楽しみください。浅田次郎の大人気シリーズ！

全席指定【一般発売8月14日(土) 10:00】
一般7000円　学生&ユース5000円（席数限定）
※本公演のチケット一般販売は、劇場チケットセンターでは取扱いいたしません。詳細は劇場HPをご覧ください。

主催：ケイファクトリー
提携：京都芸術大学 舞台芸術研究センター

チケットお問合せ先

京都芸術劇場チケットセンター

tel.075-791-8240 営業：平日10:00-17:00・公演開催日は営業時間を変更する場合があります。詳しくは劇場HPでご確認ください。

京都芸術大学 舞台芸術研究センター

京都芸術劇場 春秋座・studio21
606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116
tel.075-791-9207　fax.075-791-9438
E-mail. k-pac@kua.kyoto-art.ac.jp
https://k-pac.org/

京都芸術劇場　検索

京都芸術劇場友の会 会員募集中！ 詳しくは劇場HPへ

T-C 京都芸術劇場チケットセンター　OTS 劇場オンラインチケットストア
e+ イープラス— https://eplus.jp
ぴあ チケットぴあ— https://t.pia.jp tel.0570-02-9999
生協 京都・滋賀各大学生協プレイガイド
ローソン ローソンチケット— https://l-tike.com/

＊特に表記のない場合、前売と当日は同じ料金
＊ユースは25歳以下対象（一部公演を除く）
＊学生・ユースは要身分証明書提示、チケットは京都芸術劇場チケットセンター、劇場オンラインチケットストア、大学生協のみ取扱い

託児サービス
料金：お子様1名に付き1500円　対象：生後6ヶ月以上7歳未満
予約・お問合せ：京都芸術大学舞台芸術研究センター
Tel:075-791-9207（平日10-17時）

カーテンコール

8月からの京都芸術劇場は20周年記念の公演が目白押しです。感染症対策を万全にし、みなさまのご来場をお待ちしております。〔S〕

9 23日(木・祝) 14:00 春秋座

大学開学30周年記念・劇場20周年記念公演

猿翁アーカイブにみる三代目市川猿之助の世界 第六回フォーラム「演出」

全席指定・要事前申込み

詳細、お申込み方法は P.7をご覧ください。

10 会期：2021年10月1日(金)～10月24日(日) 春秋座

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2021 AUTUMN

春秋座、ロームシアター京都、京都芸術センター、THEATRE E9 KYOTO、ほか

公演情報等は劇場 HP で順次告知いたします。

10 9日(土)／10日(日) 14:00 春秋座

大学開学30周年記念・劇場20周年記念公演 詳細▶P.2

KUNIO10『更地』

全席指定

【一般発売8月19日(木)、友の会先行発売8月18日(水) 10:00】

一般 5500 円　友の会 5000 円

学生＆ユース 2500 円（席数限定）

※未就学児童の入場はご遠慮ください。

託児サービス 10日(日)は託児サービスをご利用いただけます。

T-C　OTS　e+　ぴあ　生協　ローソン

11 19日(金)／20日(土) 15:00、21日(日) 14:00 春秋座

大学開学30周年記念・劇場20周年記念公演

立川志の輔 独演会

歌舞伎劇場ならではの演目を特別版にてお届け！

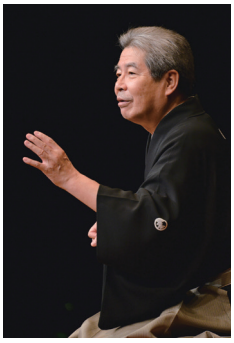
第一部

「大忠臣蔵」

～仮名手本忠臣蔵のすべて～

第二部

落語『中村仲蔵』



全席指定

【一般発売9月15日(水)、友の会先行発売9月14日(火) 10:00】

一般 5500 円　友の会 4800 円

学生＆ユース席 3000 円（座席範囲指定）

※未就学児童の入場はご遠慮ください。

託児サービス 21日(日)は託児サービスをご利用いただけます。

T-C　OTS　e+　ぴあ　生協

公開連続講座 春秋座

2021年度 日本芸能史「型と信仰」[後期]

毎　回：月曜日 15:10～16:30（ロビー・客席開場 14:40）

後　期(全14回)：2021年9月27日～2022年1月17日

受講料：1万5千円

企画・コーディネーター：田口章子（京都芸術大学 教授）

【お問合せ・資料請求先】

京都芸術劇場チケットセンター tel.075–791–8240

詳細は P.7をご覧ください。

アクセス

◉ JR・近鉄「京都」駅、京阪「三条」駅、阪急「京都河原町」駅から京都市バス 5 系統「岩倉」行きに乗車、「上終町京都造形芸大前」下車（「京都」駅から約 50 分、「三条」・「京都河原町」駅から約 30 分）

◉京都市営地下鉄「丸太町」・「北大路」駅（北大路バスターミナル）から京都市バス 204 系統循環「高野・銀閣寺」行きに乗車、「上終町京都造形芸大前」下車（約 15 分）

◉京阪電車「出町柳」駅から叡山電車に乗り換え、「茶山」駅下車、徒歩約 10 分

◉タクシーご利用の場合、「京都」駅から約 30 分。地下鉄「今出川」駅から約 15 分（「京都」～「今出川」は地下鉄で約 10 分）

※所要時間はあくまで参考としての標準時間です。天候や交通事情により変わりますのでご注意ください。

※駐車場はございませんので、お車・バイクでのご来場はご遠慮ください。

発行日―2021年8月1日

発行／編集―京都芸術大学 舞台芸術研究センター

デザイン…吉羽 一之（Simple Hope Design Room）

京都芸術劇場ニュースレター vol.50

京都芸術劇場 ニュースレター

shunjuza
studio21
Newsletter

特集

大学開学30周年記念・劇場20周年記念公演
KUNIO10『更地』
2P〜6P

大学開学30周年記念・劇場開場20周年記念公演
京都芸術劇場 春秋座 芸術監督プログラム
市川猿之助 春秋座特別舞踊公演
T・2P〜T・5P

vol. 50
2021.8

大学開学30周年記念・劇場開場20周年記念公演
京都芸術劇場 春秋座 芸術監督プログラム

市川猿之助 春秋座特別舞踊公演

本学開学30周年と当劇場開場20周年という二重の周年記念を祝い、春秋座芸術監督である市川猿之助による特別舞踊公演を開催いたします。柿落し公演で上演したゆかりのある演目やお祝いにふさわしいダイナミックで華やかな舞台をお届けいたします。

9月2日（木）11:00／15:00
3日（金）11:00
4日（土）11:00／15:00
5日（日）11:00

会　場：春秋座
製　作：松竹株式会社

◉公演情報の詳細はスケジュール一覧〈P.10〉をご覧ください。

演目紹介

御挨拶

大学開学30周年と劇場開場20周年という二重の周年記念を祝って、当劇場芸術監督の市川猿之助よりご来場の皆さまに御挨拶を申し上げます。春秋座における数々の思い出深いお話にご期待ください。

春秋三番叟

2001年5月、春秋座柿落し公演のために、三代目市川猿之助（現・猿翁）が構成し、上演された演目です。この演目で、亀治郎時代の四代目猿之助が三番叟を演じました。今回、三番叟を一門の五人が勤めます。五人の三番叟が、天下泰平、国土安穏、五穀豊穣を祈祷しながら、鈴を手にして種蒔きの所作を見せる種蒔（鈴の段）となり、次第に勢い付いて息をつく間もない激しい動きを展開します。

連獅子

初世市川猿翁演出の当たり芸を三代目市川猿之助がまとめた「澤瀉十種」のうちの一つ、『連獅子』を春秋座初お目見えで上演いたします。

『連獅子』は、松羽目物（まつばめもの）の代表的な長唄の舞踊。子を谷底に落とし、這い上がってきた強い子だけを育てるという「獅子の子落とし」の物語を基に舞踊化した演目です。

前シテでは手獅子（手持ちの獅子）を持った狂言師右近と左近が現れ、文殊菩薩の霊山、清涼山にかかる石橋（しゃっきょう）で、文殊菩薩の使いである獅子が牡丹に戯れている様子を舞い描き、「獅子の子落とし」の伝説へと移ります。中でも、わが子を険しい谷底へ蹴落とし、自力で這い登ってくるのを励ます場面は親が子を思う情愛の深さに感動を呼びます。

二人の狂言師が花道を引っ込むと入れ（そ）、清涼山の石橋は」から始まる大薩摩は聴き所です。やがて花道から白毛の親獅子と赤毛の仔獅子の精が登場。親子の獅子の精は狂いと呼ばれる激しい動きを見せ、いよいよダイナミックな「毛振り」で競い合います。

「澤瀉十種」の演出の『連獅子』は振り数が多く、振付も非常に華やかといわれています。

今回は親獅子を猿之助、仔獅子を鷹之資による初共演にて上演。息の合った勇壮ぶりをご披露します。

ここにも注目！

松羽目物

能・狂言を題材にした演目を「松羽目物」といい、能舞台の鏡板を模して舞台奥に老松を描くのが特徴です。

牡　丹

『連獅子』では、舞台のいたるところに牡丹の意匠が登場します。百獣の王・獅子と百花の王・牡丹は華やかな取り合わせとして、古来より「唐獅子牡丹」として、美術品の意匠などにも使われてきた図柄。また、獅子の身体に寄生し、命をおびやかす「獅子身中の虫」は牡丹の花の夜露で抑えることから、牡丹は獅子にとっての安住の地の象徴であると伝えられています。この牡丹の意匠は獅子の衣裳などにも使われているので、ぜひ注目してみてください。

市松の二畳台

澤瀉屋の『連獅子』は、後シテで出される二畳台を三枚用いて石橋に見立てた舞台を作ります。また、周囲が市松模様になっているのも特徴です。

獅子の頭

後シテで獅子の精がかぶる頭は、チベット高原を中心に生息するウシ科の動物・ヤクの毛でできています。

演目

一、大学開学三十周年記念 劇場開場二十周年記念 **御挨拶** 市川猿之助

市川猿翁 構成
石川耕士 補綴

二、素踊り **春秋三番叟** 長唄囃子連中

三番叟 市川弘太郎
同 市川猿四郎
同 市川笑野
同 市川猿紫
同 市川喜猿

河竹黙阿弥 作

三、澤瀉十種の内 **連獅子** 長唄囃子連中

狂言師右近 後に親獅子の精 市川猿之助
狂言師左近 後に親獅子の精 中村鷹之資

市川猿之助

早いもので春秋座が開場して二十年を数えます。重ねて、本学開学三十年という節目の年を祝い、この度、記念公演の開催と相成りました。エンターテイメント界にとってもまことに厳しいコロナ禍ではありますが、どのような形でもとの強い要望から、様々な制約下、出来得る限りの舞台をお届けいたします。春秋座柿落し公演の折に創作された『春秋三番叟』を、構成も新たに澤瀉屋一門の面々が勤めます。また、澤瀉屋の家の芸より『連獅子』を、将来有望な若手俳優のひとりである中村鷹之資さんの仔獅子にて、ご覧に入れます。

お時間とお気持ちに余裕のある方は、ぜひ当劇場までお運び下されば幸いです。

中村鷹之資

猿之助のお兄さんと踊らせて頂きたいと思っていた念願が叶い、この記念公演にて『連獅子』を勤めさせて頂く事になりとても嬉しいです。『連獅子』は、父の自主公演や春秋座にて藤間のご宗家とも勤めさせて頂いた、大好きな作品です。今回は初めて澤瀉十種の型に挑戦させて頂きます。お兄さんの胸を借りて仔獅子が谷底から駆け上がる勢いそのままに、精一杯ぶつかって参りたいと思います。

市川弘太郎

市川笑野

市川喜猿

市川猿紫

市川猿四郎

猿之助、冒険と創造の原点、春秋座

亀岡　典子（産経新聞大阪本社文化部特別記者・編集委員）

芸術を創造する上で、自分の「基地」を持っている人ほど強いものはない。市川猿之助の輝かしい活動を見るとき、いつもそんな思いにとらわれる。創造と冒険の場としての春秋座は猿之助が自身と歌舞伎の可能性を切り拓いていく上で大きな意味を持ってきた。「出る杭は打たれる。でも出すぎる杭は打たれない」。かつて猿之助が語った言葉だが、この劇場で猿之助が行ってきたことが、古典歌舞伎はもちろん、スーパー歌舞伎Ⅱの創造、若手の抜擢などすべてに大きな成果として現れているように思えるのである。

猿之助が同劇場の芸術監督に就任したのは平成25年。だが前名の亀治郎時代、すでに現在につながる挑戦を行っている。その一つが「亀治郎の会」の第1回公演『摂州合邦辻』（平成14年）で、この舞台の鮮烈さはいまも語り草だ。というのも、猿之助が演じた玉手御前は女方の最難関の役どころ。古今、「玉手の恋は真実か嘘か」と論議を呼ぶほどさまざまな解釈がされてきた作品だからである。当時、猿之助は二十六歳だったが、本行の文楽を研究し、坂田藤十郎に役の性根の教えを受けた上で自身の解釈を加え、自ら台本を補綴し演出までやってのけた。本番の舞台。そこにいたのはまさに、「つづ（十九）やはたち（二十歳）」の若い女の命をかけた恋であった。重厚さが目立っていた作品に猿之助は新たな命を吹き込んだ。振り返ってみればこの公演が、今に至る猿之助の原点の一つだったのではないだろうか。

自主公演ではほかにも、京都芸術大学の学生に舞台美術を任せたり、日本画家、千住博の絵画を背景に踊ったり。「伝統芸能の今」と題した公演では能の囃子方や尺八演奏家、ギタリストらとジャンルを越えたコラボレーションに臨んでいる。それは、たとえば、世界的建築家、安藤忠雄が既存の古い建物を利用して現代に合う新しい建物を創造する作業に似ているのかもしれない。その春秋座で9月、大学開学30周年、劇場開場20周年を記念する舞踊公演を行う。猿之助は『連獅子』、一門の五人は『春秋三番叟』を踊る。まだまだ進化を遂げる猿之助、春秋座ならではの舞台になるはずだ。